

在宅医療・介護連携に関する アンケート調査結果

調査期間：R 2. 2. 26～3. 15（延長5日間）

対象：都城市・三股町訪問看護ステーション管理者

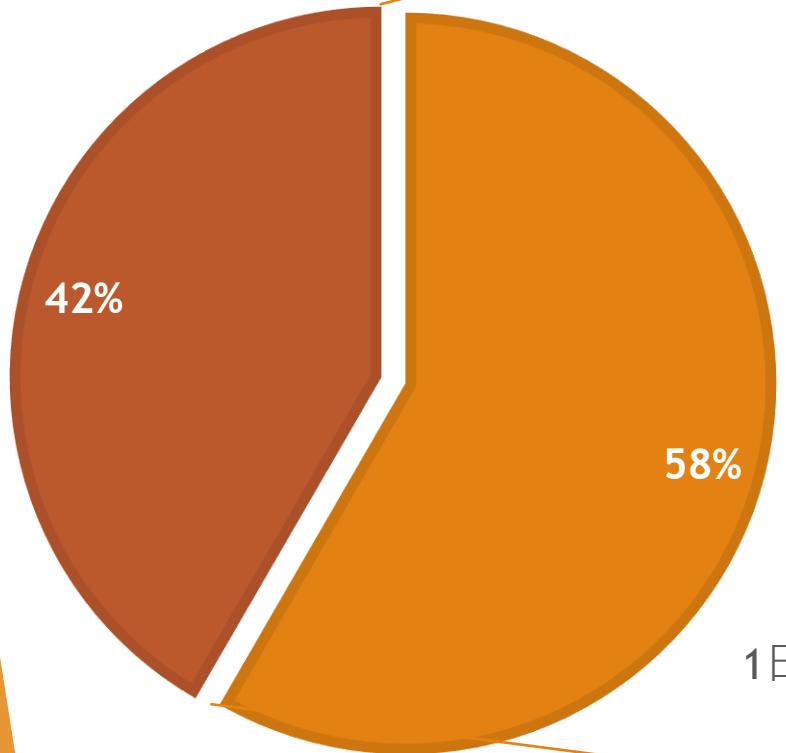
回答者数：12／26事業所

回収率：46.15%

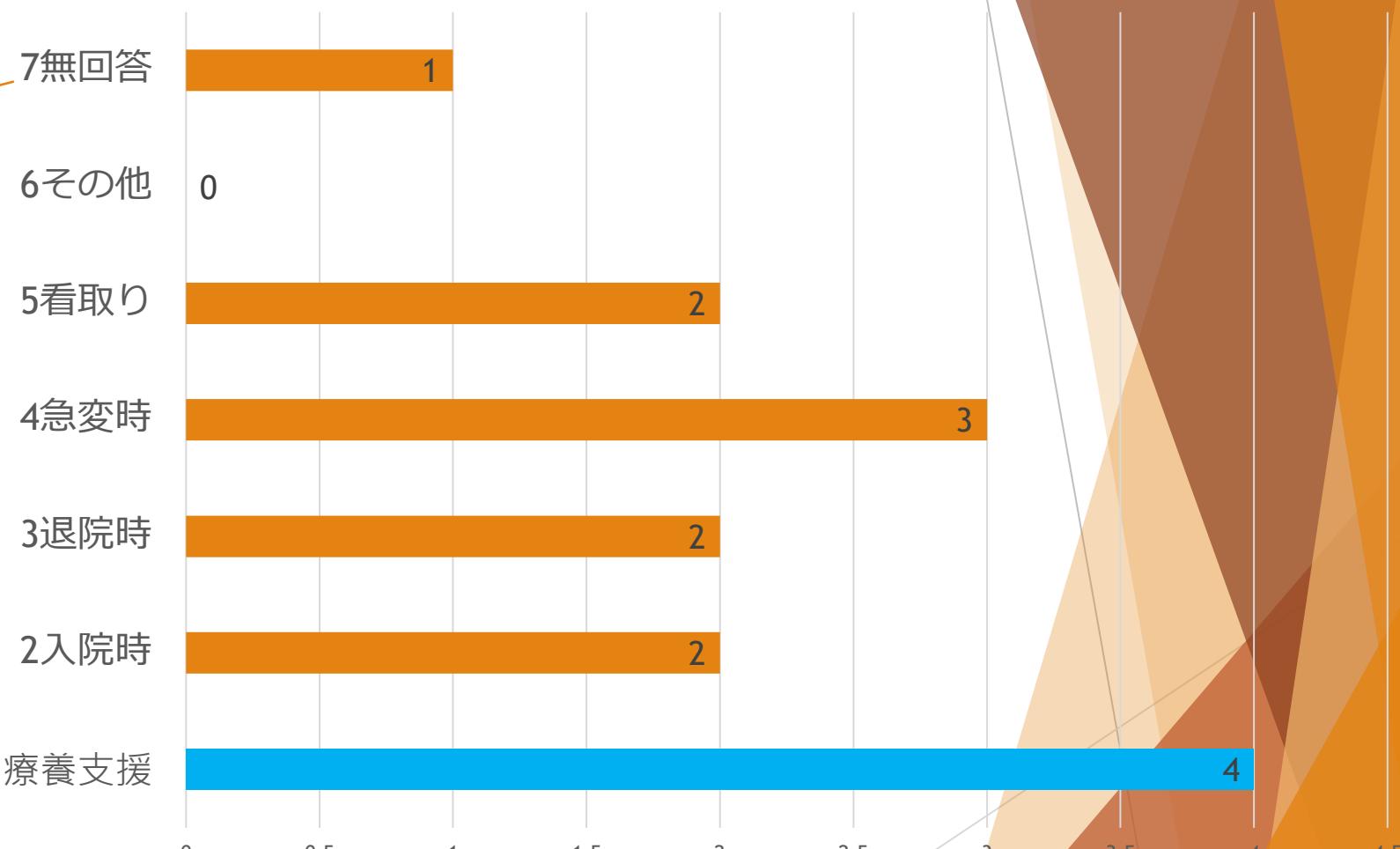
**調査目的：在宅医療・介護連携に関する3年間の変化の実態把握
(3設問追加質問あり)**

問1 医療と介護の困難さ

■ア ある ■イ ない



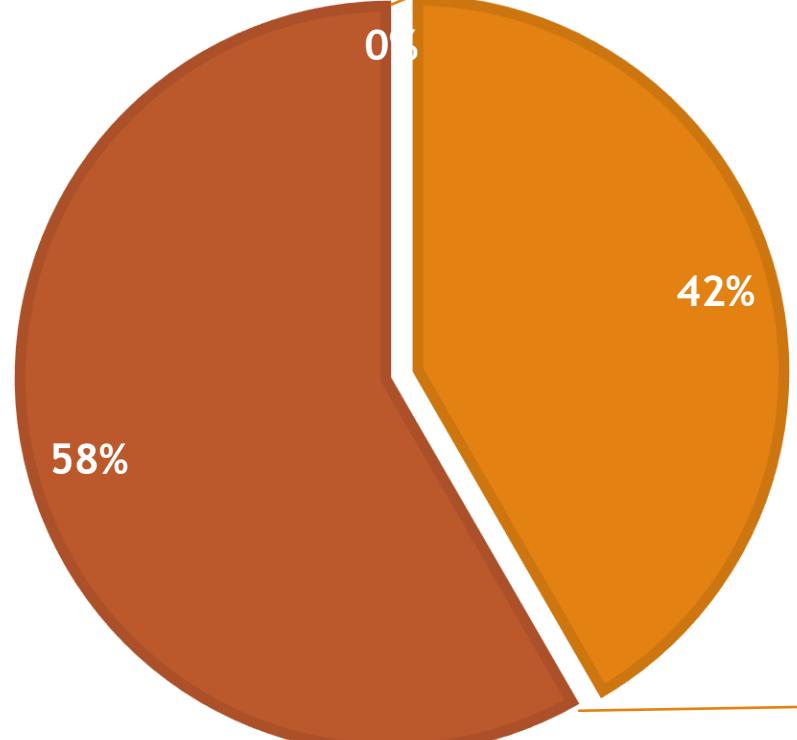
問2 困難さを感じると回答した方の困難さを感じる場面



医療と介護の困難さを感じると回答した訪問看護師が 58%。その場面としては、日常療養支援が最も多く、次が急変時の順であった。

問3 3年前との連携の困難さの変化

- ア 少なくなった ■ イ 変わらない
- ウ 増えた



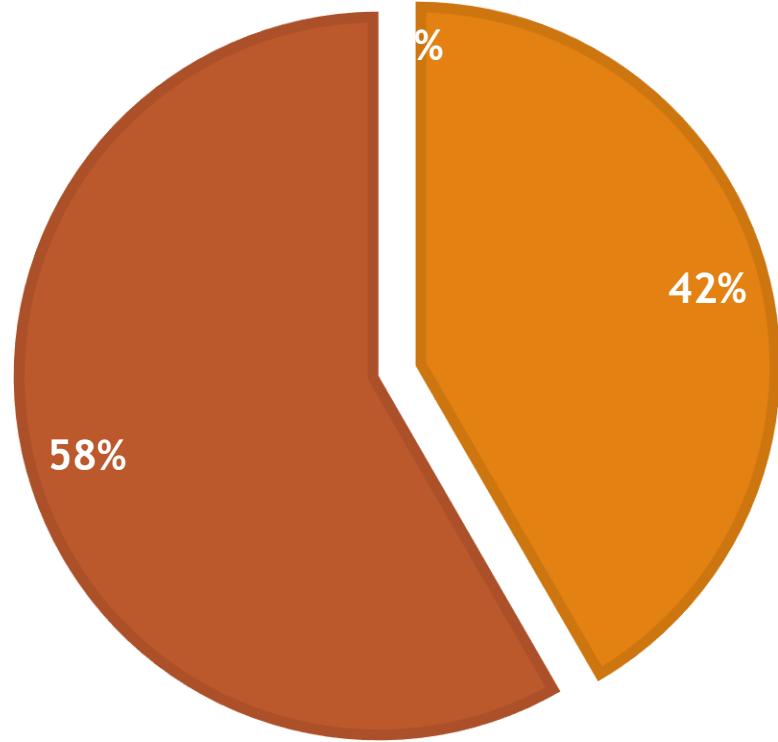
問4 問3で、「1」「3」と回答した方 困難さの変化をどのような時感じるか

- ・退院前の調整や連絡がスムーズになってきた。病院差がある。
- ・CMとの繋がりが良くなかった(訪問看護の仕事を理解してくれるCMが増えた)
- ・担当者会議への参加が多くなった。
- ・医院やクリニックに連絡時すぐに対応してくれる。
- ・情報共有を行うときお互いの立ち位置について以前より理解が深まり協議がスムーズな面が増えた。
- ・以前より退院前の情報が、前もって入るようになった。
- ・病院スタッフと会話する機会が増えやり取りしやすくなった。

3年前に比べると連携の困難さが「減少した」のが42%。「変わらない」58%であった。が、連携の変化については、入退院前後の情報共有が円滑になったというプラスの意見が多かった。

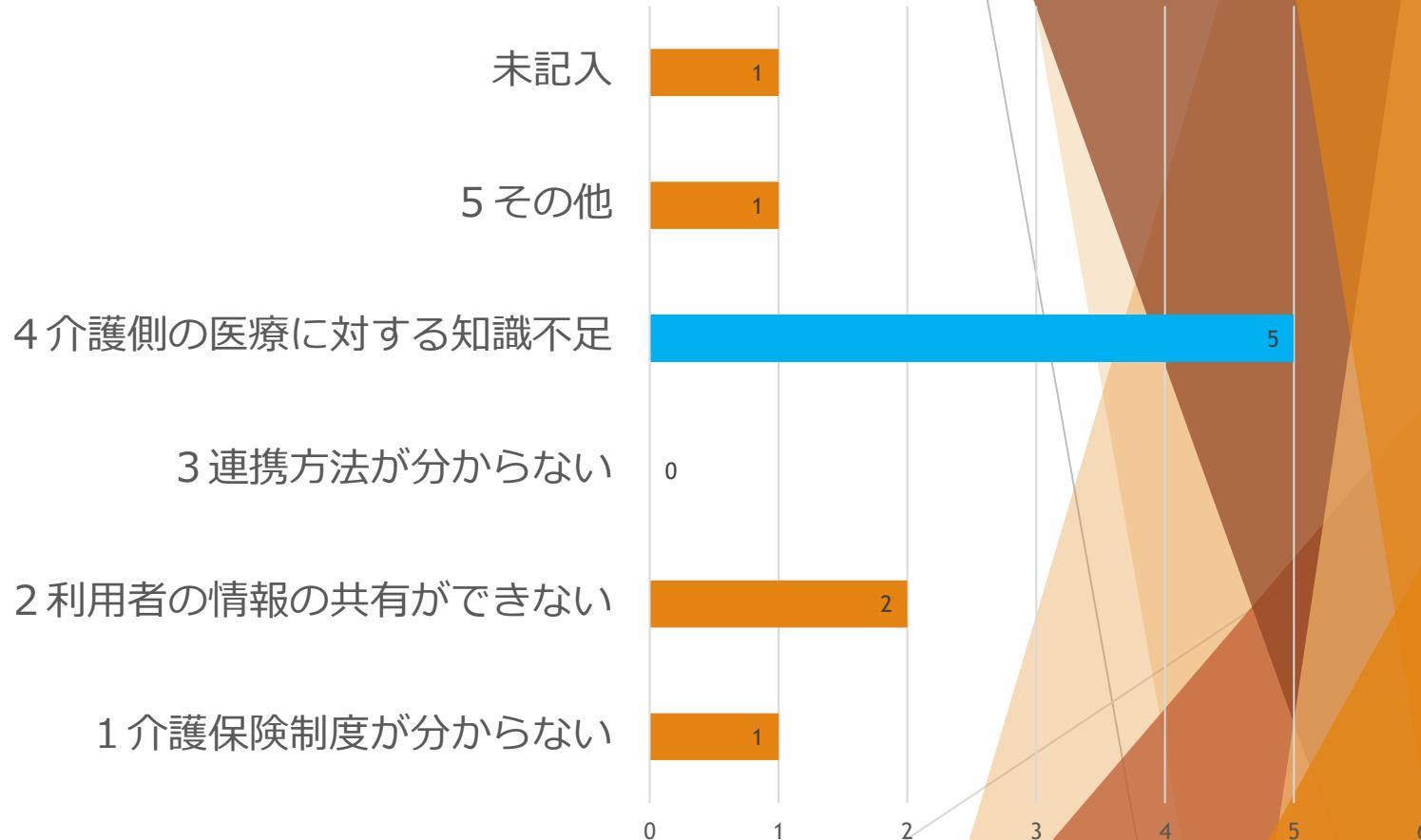
問3 3年前との連携の困難さの変化

- ア 少なくなった ■イ 変わらない
- ウ 増えた



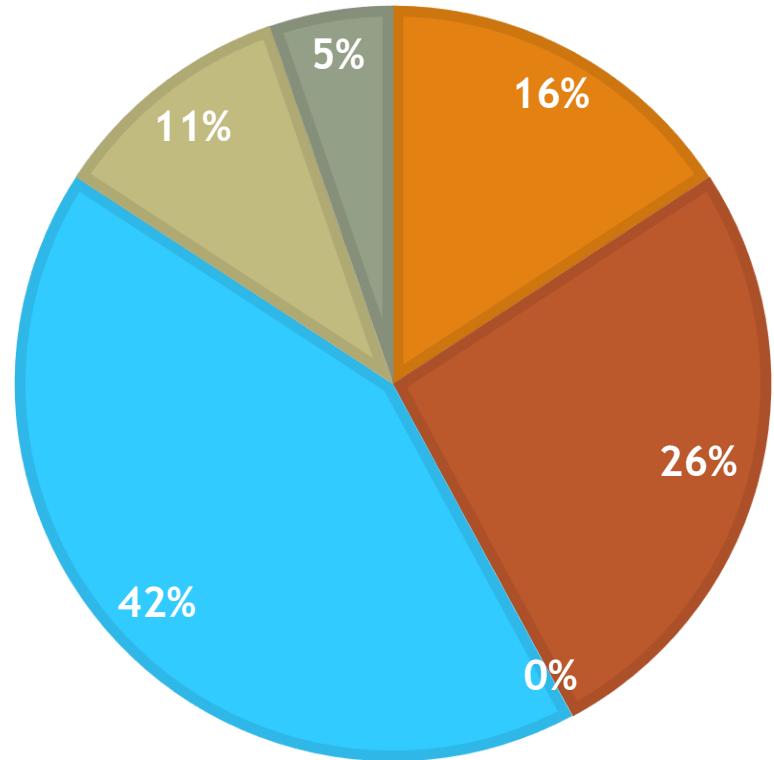
医療と介護の連携の困難さは変わらない理由としては、介護側の医療に対する知識不足が最も多かった。

問5 問3で「医療と介護の連携の困難さは変わらない」と回答した方の理由は何ですか



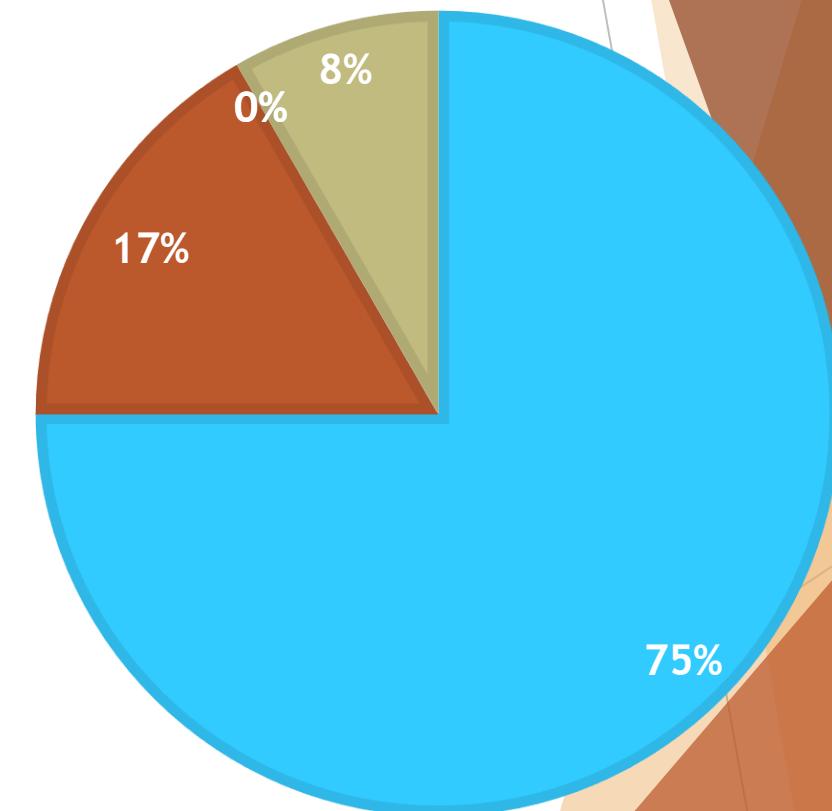
問6 多職種連携で有効なツール

- | | |
|-------------|-----------------|
| ■ア 共通連携シート | ■イ I C T情報共通ルール |
| ■ウ 個人の情報ノート | ■エ MCS |
| ■オ その他 | ■力未記入 |



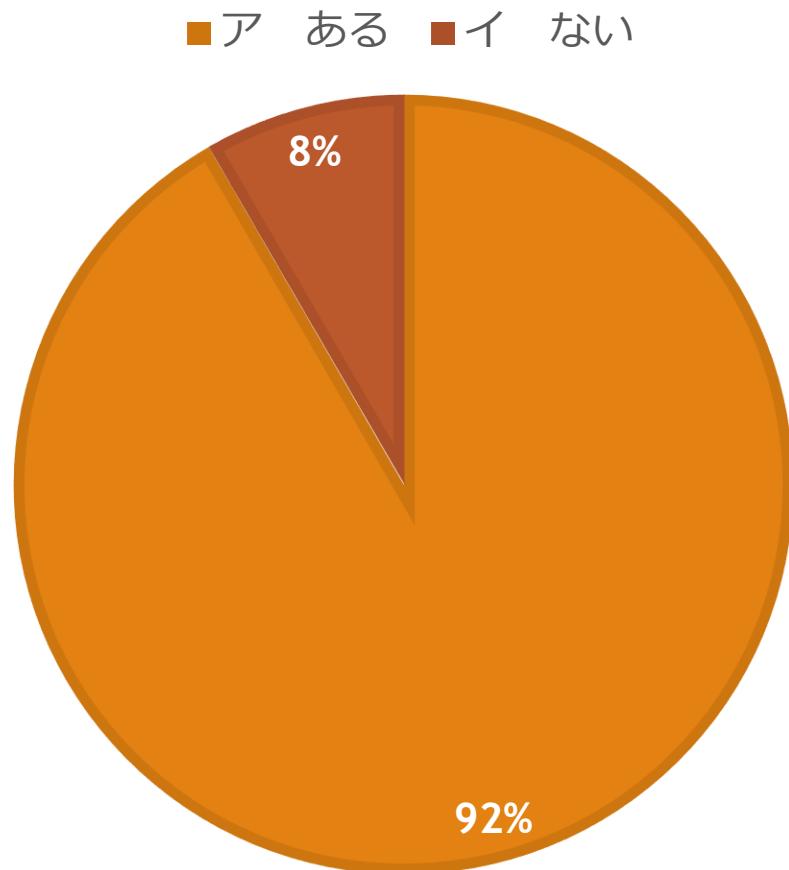
問7 MCSの利用について

- | | |
|---------|----------|
| ■ア 利用した | ■イ 利用はない |
| ■ウ 検討中 | ■エ 予定はない |
| ■オ その他 | |

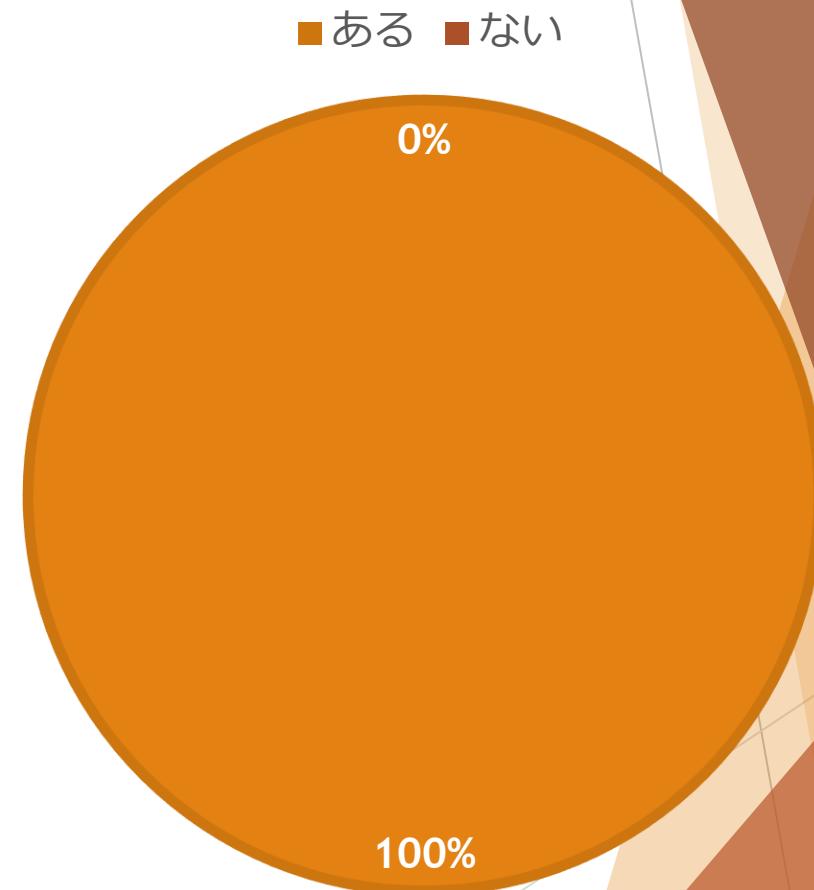


多職種連携で有効なツールとしては、MCSが最も多かった。実際MCSを利用したことがあるのは、75%の結果であり、訪問看護では、MCSの活用が増加することが予測される。

問8 カンファレンスの参加



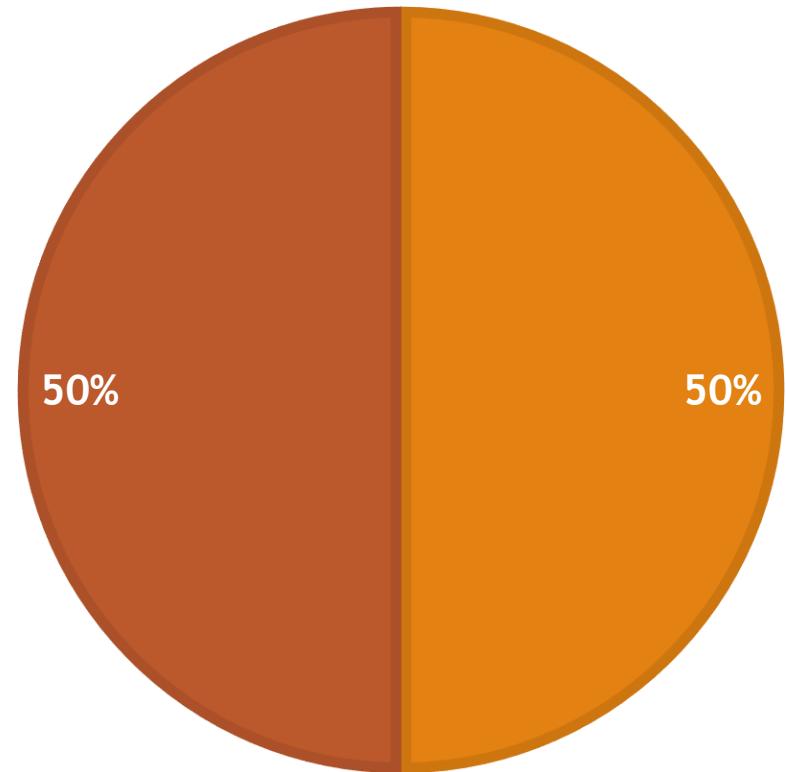
問9 担当者会議の参加



訪問看護師のカンファレンスの参加は92%、担当者会議は100%であり、医療機関・CM共に、在宅での訪問看護師の役割は大きいことが分かった。

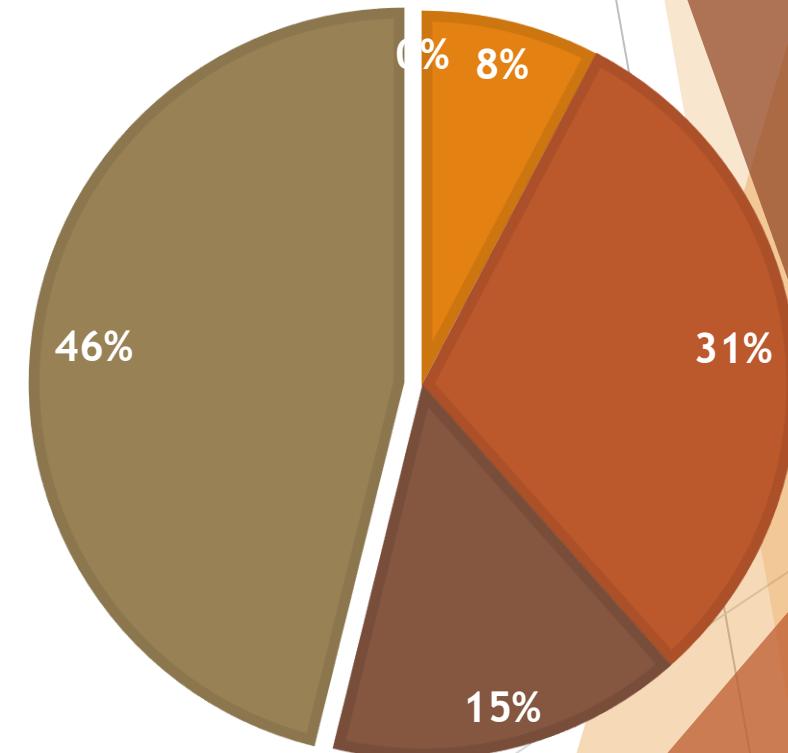
問10相談支援センターの認知度

■ 知っている ■ 知らない



問11 当センターへの相談について

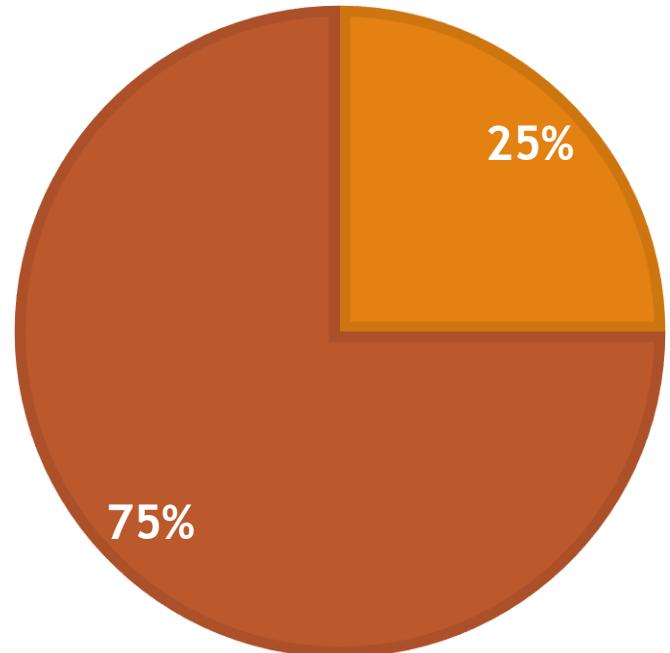
■ 1 相談したことがある ■ 2 必要時
■ 3 今必要ない ■ 4 何を相談?
■ 5 その他



当相談支援センターの認知度は、50%であり、「何を相談したらよいかわからない」という回答が46%で最も多かった。HPに過去の事例を掲載することで参考にしてもらい、気軽に何でも相談ができるよう周知していく必要がある。。

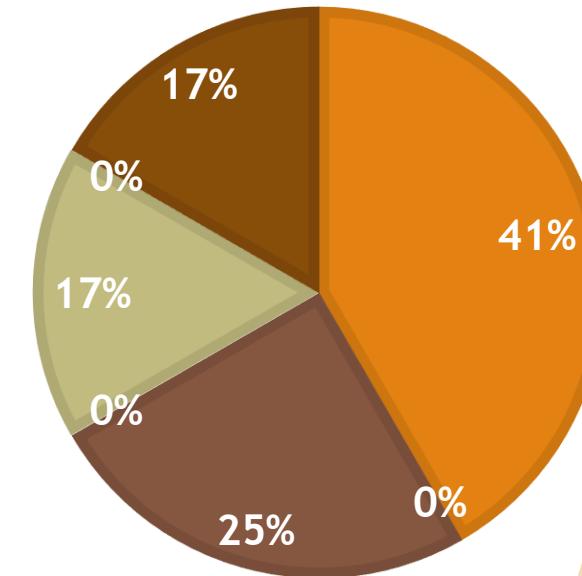
問12多職種電話相談の認知度

■知っている ■知らない



問13多職種電話相談について

■1相談がない
■2勤務時間外
■3専門職が居る
■3職種ではない
■4タイミングがあわない
■5その他
■未記入

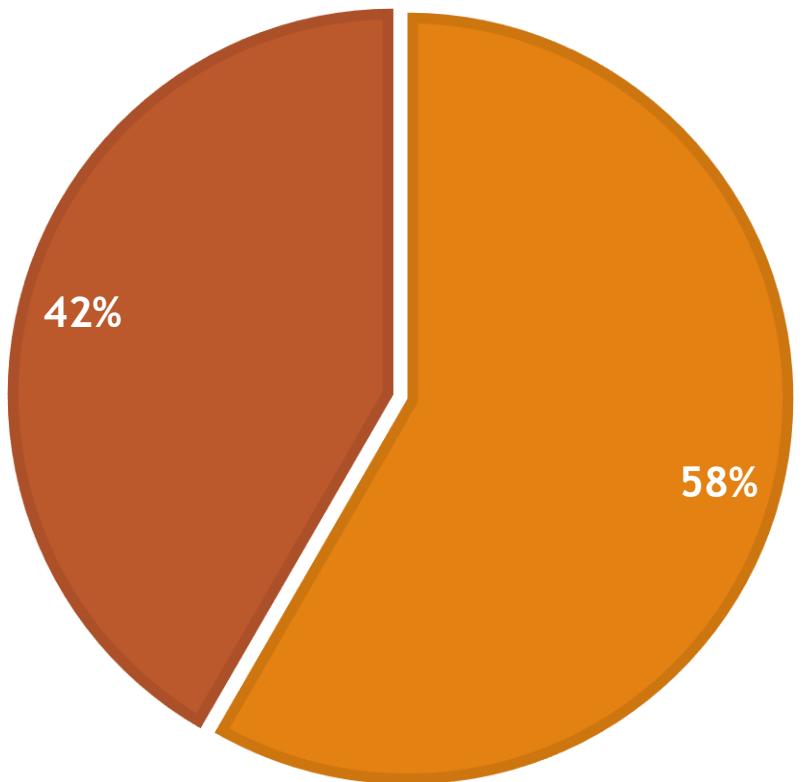


多職種電話相談の認知度は、25%。今年度からの取り組みであり、周知不足である。多職種電話相談では、相談することができない41%、相談できる専門職がいる25%という結果だった。訪問看護師の役割は多岐にわたり必要性が低いことが推測される。もっと専門職の知識を活用に繋げられるよう周知をしていく必要がある。

問14当協議会研修会参加の

有無

■ 1ある ■ 2ない



当協議会研修会の参加について、58%が参加したことがあるが、42%は参加したことがないという結果だった。理由としては、開催日に都合が合わないといった回答が最も多かった。

問15 研修会に参加しない理由

未記入

3

6その他

2

5オンラインの為

0

4講師への関心がない

0

3他の研修会の参加

0

2テーマに関心がない

1

1開催日

5

0

1

2

3

4

5

6

0 1 2 3 4 5 6

問16 医療と介護の連携について日頃感じていること

- 特定の施設は、あいさつ回りに行ったとき、いやな顔をされるところがあるが・・・
- コロナで、会うことがままなりませんが、膝を突き合わせて何でも話せる環境が必要だと思います。
- MCSを使う場面が、増えていますが、とても便利です。情報がタイマー、使いやすい、関係機関との情報交換が手軽です。

都城市・三股町圏域の訪問看護ステーション(26事業所)を対象にアンケート調査を実施した。今回のアンケート回収率は、12事業所46.15%と半数に満たない状況であった。今後も、医療・介護連携についての活動報告や、研修会の周知を実施し、在宅で活躍される訪問看護師の関心や課題を引き出し多職種連携に繋げられるよう取り組んでいきたい。